第十八講 ● 短歌・俳句

◇短歌とは

さまざまな思いや感動を五・七・五・七・七の五句三十一音で表現したものを短歌といいます。「三十一文字（みそひともじ）」ともいわれます。

◇短歌の重要事項（じこう）

①　形式

五（初句）・七（二句）・五（三句）・七（四句）・七（結句）の三十一音が基本の形式です。初めの五・七・五を「上の句（かみのく）」、あとの七・七を「下の句（しものく）」といいます。

②　句切れ

一首（短歌の数え方）の中で意味が大きく切れるところを句切れといいます。切れる位置によって、「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」といいます。

例　街をゆき子供（こども）の傍（そば）を通る時
蜜柑（みかん）の香（か）せり／冬がまた来る
四句切れ↑　木下利玄（きのしたりげん）

③　表現技法

比喩（ひゆ）・体言止め・倒置法（とうちほう）など、詩と同じ技法や枕詞（まくらことば）が使われます。

○枕詞…特定のことばの上にそえて、ことばの調子を整えます。

例　ひさかたの光のどけき春の日に
しづ（ず）心なく花のちるらむ（ん）　紀（きの）友則（とものり）

「ひさかたの」は「光」の枕詞

（枕詞の例）　たらちねの→母（親）
あを（お）によし→奈良（なら）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

◇俳句（はいく）とは

さまざまな思いや感動を五・七・五の三句十七音で表現したものを俳句といいます。世界で最も短い詩といわれています。

◇俳句の重要事項

①　形式

五（初句）・七（二句）・五（結句）の十七音が基本の形式です。短歌・俳句ともに、基本の形式より音数が多いものを「字余り」、少ないものを「字足らず」といいます。

②　季語

俳句には、季語（季節を示すことば）を一つ入れるという決まりがあります。

例　春…菜の花・うぐいす・ひなあられ・入学
夏…あじさい・せみ・いちご・プール
秋…コスモス・ばった・柿（かき）・運動会
冬…さざんか・ふぐ・大根・スケート

③　切れ字・句切れ

「ぞ・や・かな・けり」などを切れ字といい、感動の中心や句の切れ目を示します。

例　荒海（あらうみ）や／佐渡（さど）に横たふ（とう）天河（あまのがわ）　松尾芭蕉（まつおばしょう）

→初句切れ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　海恋し潮の遠鳴りかぞへては
　　少女となりし父母の家　　与謝野晶子

B　向日葵は①金の油を身にあびて
　　②ゆらりと高し日のちひささよ　　前田夕暮

問一　Aの短歌に使われている表現技法を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　擬人法　　イ　体言止め
ウ　反復法　　エ　倒置法

問二　Aの短歌をよんだとき、作者はどこにいたと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　海岸
イ　潮の遠鳴りが聞こえる所
ウ　父母の家
エ　故郷からはなれた所

問三　――線①「金の油」は何をたとえたものですか。

問四　――線②「ゆらりと高し」とありますが、ゆらりと高いものは何ですか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　閑(しず)かさや岩にしみ入る蟬(せみ)の声　　松尾芭蕉(まつおばしょう)

B　柿(かき)食へ(え)ば鐘(かね)が鳴るなり法隆寺(ほうりゅうじ)　　正岡子規(まさおかしき)

問一　A・Bの俳句の季語と季節を、それぞれ書きなさい。

A　季語［　　　　］　季節［　　］

B　季語［　　　　］　季節［　　］

問二　A・Bの俳句について説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　古都の静かなおもむきが感じられる。

イ　季節の移り変わりをうたっている。

ウ　二つの色の対照が印象的で美しい。

エ　音を表現することによって、静けさをきわ立たせている。

A［　　］

B［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　いつしかに春の名残（なごり）となりにけり
　昆布干場（こんぶほしば）のたんぽぽの花
　北原白秋（きたはらはくしゅう）

B　①金色（こんじき）のちひ（い）さき鳥のかたちして
　いてふ（いちょう）散るなり夕日の岡（おか）に
　与謝野晶子（よさのあきこ）

C　たらちねの母が釣（つ）りたる*1青蚊帳（あおがや）を
　*2すがしといねつ②たるみたれども
　長塚節（ながつかたかし）

D　くれなゐ（い）の二尺（しゃく）伸びたる薔薇（ばら）の芽の
　針（はり）③やはら（わ）かに春雨（はるさめ）のふる
　正岡子規（まさおかしき）

E　ふるさとの訛（なまり）なつかし
　停車場の人ごみの中に
　④*3そを聴（き）きにゆく
　石川啄木（いしかわたくぼく）

*1青蚊帳＝蚊（か）にさされないように、つりさげて、ねどこをおおうもの。
*2すがしといねつ＝すがすがしいと言ってねた。
*3そ＝それ。

問一　B・Cの短歌に共通して使われている表現技法として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　擬人法（ぎじんほう）　**イ**　体言止め
ウ　倒置法（とうちほう）　**エ**　反復法

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　A～Eの短歌のうち、字余りの短歌を一つ選び、記号で答えなさい。

□

問三　Cの短歌の中から、枕詞（まくらことば）とその枕詞がかかることばを書きぬきなさい。

枕詞 □

枕詞がかかることば □

問四　Aの短歌は何句切れですか。

□句切れ

問五　Aの短歌でよまれている作者の心情として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　植物のたくましさにおどろき、感心している。

イ　遠くはなれた故郷（こきょう）をなつかしんでいる。

ウ　春が来た喜びで心がはずんでいる。

エ　春が過ぎていくのをしみじみと感じている。

□

問六　Bの短歌によまれている季節はいつですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　春　**イ**　夏

ウ　秋　**エ**　冬

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　――線①「金色のちひさき鳥」とありますが、何をこのように表現したのですか。

問八　――線②「たるみたれども」とありますが、何がたるんでいるのですか。

問九　――線③「やはらかに」とありますが、薔薇の芽の針のほかにやわらかいものとしてこの短歌で歌われているものは何ですか。

問十　――線④「そ」は何を指していますか。短歌の中から六字で書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次のＡ～Ｄの短歌は、斎藤茂吉（さいとうもきち）の連作（連続して作られた作品）です。これを読んで、作られた順に記号を並べなさい。

Ａ　＊１みちのくの母のいのちを
　　一目見ん一目みんとぞただにいそげる

Ｂ　のど赤き＊２玄鳥（つばくらめ）ふたつ＊３屋梁（はり）にいて
　　たらちねの母は死にたまふ（もう）なり

Ｃ　みちのくに病む母上にいささかの
　　胡瓜（きゅうり）を送る障（さわ）りあらすな

Ｄ　死に近き母にそひ（い）寝（ね）のしんしんと
　　遠田のかはづ（わず）天に聞こゆる

＊１みちのく＝東北地方。作者の故郷（こきょう）は山形県。
＊２玄鳥＝つばめ。
＊３屋梁＝屋根の重みを支えるために、横にわたした太い柱。

□ → □ → □ → □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五題目　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　名月や池をめぐりて*1夜もすがら　松尾芭蕉

B　菜の花や月は東に日は西に　与謝蕪村

C　ちる芒寒くなるのが目にみゆる　小林一茶

D　朝顔に*2つるべ取られてもらひ(い)水　加賀千代女

*1夜もすがら＝一晩じゅう。
*2つるべ＝井戸から水をくみ上げるおけ。

問一　A～Dの俳句の(1)季語と(2)季節を、それぞれ書きなさい。

	A	B	C	D
(1)				
(2)				

問二　Aの俳句の中から、切れ字を書きぬきなさい。

問三　Bの俳句がよまれた時間帯として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　日の出前　　**イ**　日の出ごろ
ウ　正午ごろ　　**エ**　夕方

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　A〜Dの俳句の中から対句（ついく）が使われているものを選び、記号で答えなさい。

問五　次のそれぞれの説明に合う俳句をA〜Dから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)　広々とした光景が絵のようにえがかれていて、黄色と赤の色の対比が印象的で美しい。

(2)　目の前の情景から季節の変化を感じ取っている。

(3)　日常のできごとをえがいた中に、植物に対するおもいやりが感じられる。

(4)　月の美しさに夢中になり、時のたつのも忘（わす）れてしまったことがよまれている。

(1)

(2)

(3)

(4)

問六　松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶が活躍した時代を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　平安時代　**イ**　鎌倉（かまくら）時代

ウ　江戸（えど）時代　**エ**　明治時代

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　短歌・俳句

一題目

問一　イ
問二　エ
問三　(例)太陽の光
問四　向日葵

二題目

問一　A　〈季語〉蝉　〈季節〉夏
　　　B　〈季語〉柿　〈季節〉秋
問二　A　エ
　　　B　ア

三題目

問一　ウ
問二　E
問三　〈枕詞〉たらちねの
　　　〈枕詞がかかることば〉母
問四　三〈句切れ〉
問五　エ
問六　ウ
問七　いちょう(の葉)
問八　青蚊帳
問九　春雨
問十　ふるさとの訛

四題目

C→A→D→B

五題目

問一　A　(1)　名月　(2)　秋
　　　B　(1)　菜の花　(2)　春
　　　C　(1)　芒　(2)　秋
　　　D　(1)　朝顔　(2)　秋
問二　や
問三　エ
問四　B
問五　(1)　B
　　　(2)　C
　　　(3)　D
　　　(4)　A
問六　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。